

ひとやねかわら版 09

新春号 2026 WINTER

ひとやねは「一つ屋根の下」という言葉に由来し、さまざまな人や物、ことが集まる場所を提供し続けます

1976 - 2026

Ueda Bankinten

50th anniversary

NEXT100

おかげさまで、植田板金店は創業50周年を迎えることができました。
 これまで支えてくださったお客様・地域の皆様・協力会社の皆様、
 そして社員一人ひとりに心より感謝申し上げます。

ひとやね

LINE 友だち募集中!!

ご登録特典のクーポンがもらえる
 毎月ひとやねで使えるお得なクーポン配信中

¥200OFF

QRコード

OB様向け



代表取締役
植田博幸

50周年のご挨拶

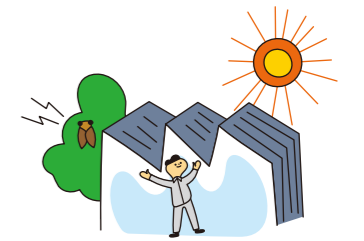
私たち植田板金店は、1976年の創業以来、多くの皆さまに支えられ、2026年に50周年を迎えることとなります。ここまで歩み続けることができたのは、お客様をはじめ、地域の皆さまや協力会社のお力添えの賜物です。あらためて深く感謝申し上げます。

私たちのミッションは、「安心できる『パ』づくり。」です。
 安心できる住まい、快適に働ける職場環境、地域の人々が挑戦に踏み出せる拠点——さまざまな“場”を通じて、人々が心から安心できる環境をつくり続けています。

2024年には、その想いを形にした拠点「ひとやね」を開設しました。ここは屋根や小屋の展示場であると同時に、人と人が出会い、新しい挑戦や学びが生まれる地域のハブとして広がっています。「安心できる『パ』づくり。」を体現する場であり、これからの時代に向けた新たな挑戦の舞台でもあります。

現在は「屋根やさん」「塗装やさん」「遮熱やさん」「小屋やさん」という4つの専門事業を展開し、住まいの安全や快適さ、そして環境への配慮にも力を注いでいます。これからも「日本一の板金屋」を目指し、それは規模や売上ということだけではなく、「社員の幸福・お客様の満足・関わる人との信頼」を大切にしていきます。

50周年を新たな出発点とし、これからも挑戦を重ねながら、地域に必要とされ続ける存在であり続けたいと思います。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



ひとやね これからの予定

- ▼ 1月16日(金)、17日(土) / 植田板金店50周年OB様感謝祭
- ▼ 2月8日(日) / ひとやねマーケット
- ▼ 2月21日(土)、22日(日)、23日(祝・月) / 植田板金店50周年&ひとやね2周年感謝祭(仮)

編集後記

50周年を迎えるにあたり、あらためてこれまでの歩みを振り返ってみると、日本の暮らしや技術は、本当に大きく変化してきました。会社が誕生した50年前は、「おかげ！たいやきくん」が大ヒットしていた時代。街には活気があり、70年代から90年代にかけて日本の主要企業は、エレクトロニクスや自動車、重工業といった分野で世界をリードし、経済成長をけん引していました。80年代後半にはバブルの勢いもあり、90年代に入ると海外生産が一気に広がり、グローバル化が加速していきました。

その頃、私はまだ小学生。家電といえば、日本製があたりまえで、迷う必要すらありませんでした。家にはSONYのウォークマンがあり、音楽の主役はレコードからCDへ。ラジカセもありましたし、SANSUIの大きなコンポは、子どもだった私にとって、大人のかっこよさを象徴する存在でした。当時はコンパクト家電なんて想像もしませんでした。あの大きなスピーカーから流れる音楽が、家の中の時間を豊かにしてくれていたのをよく覚えています。

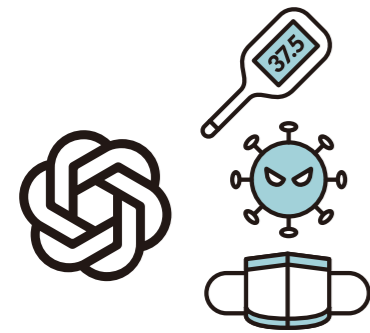
50年という節目は、技術の進化や暮らしの変化を実感する時間でもあります。これからの50年も、時代とともに変わり続ける存在でありたいと思っています。

編集担当・小宮山

ひとやねのことや、「ひとやねかわら版」に関するご意見、ご質問はこちらまでどうぞ！ >>>>> hitoyane@uedabk.jp(かわら版担当者宛て)

 UEDA BANKINTEN https://uedabk.co.jp	 ひとやね 屋根・小屋の展示場 コワーキングスペース https://hitoyane.shop	 ひとやね コワーキングスペース https://hitoyane-cw.com	 屋根やさん 安心を届ける https://uedabk.jp	 塗装やさん 美観をつくる https://tosouyan.net	 小屋やさん 夢をかなえる https://koyayasan.com	 遮熱やさん 環境をまもる https://shanetuyasan.com

植田板金店と屋根の50年の進化



令和



平成



昭和

- 2025 (R7) 大阪・関西万博開催
- 2025 (R7) 円安進行(ChatGPT拡大)
- 2023 (R5) 東京五輪(1年延期)
- 2021 (R3) 新型コロナウイルス流行
- 2020 (R2) 令和に改元
- 2019 (H31/R1) 西日本豪雨
- 2018 (H30) 熊本地震
- 2016 (H28) 東京五輪2020決定
- 2013 (H25) SGL発売
- 2013 (H25) 東日本大震災
- 2011 (H23) リーマンショック
- 2008 (H20) 屋根材「ROOGA」発売
- 2007 (H19) 東海道新幹線のぞみ登場
- 2003 (H15) USJ開園/小泉政権
- 2001 (H13) 長野オリンピック
- 1998 (H10) 第1次ポケモン発売
- 1996 (H8) 阪神・淡路大震災
- 1995 (H7) Jリーグ開幕
- 1993 (H5) バブル崩壊
- 1991 (H3) 消費税(3%)スタート
- 1989 (H1) ポケベル(ポケベル)普及の始まり
- 1988 (S63) バブル期へ
- 1986 (S61) 男女雇用機会均等法成立
- 1985 (S60) ファミコン発売
- 1983 (S58) 東京ディズニーランド開園
- 1980 (S55) モスクワ五輪ポイコット
- 1976 (S51) ロッキード事件

植田板金店は、2026年1月に創業50周年を迎えました。家の暮らしを守り続けてきた屋根。その歴史に触れることで、少しでも屋根に興味を持っていただけたら嬉しく思います。そしてこれからも地域に寄り添う職人集団として、安心できるバ場・家・屋根づくりを、真心を込めて、皆さまの暮らしを支えてまいります。



2017年 小屋やさんを開始



2022年 遮熱やさん/屋根やさんを開始



2022年「木庵」国立競技場で完成披露発表会を開催



2023年 塗装やさんを開始



2024年 日本初、屋根・小屋の展示場とワークスペースの複合施設

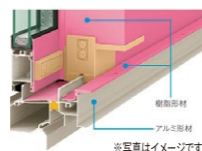


2025年 新企業理念策定/RVパークsmartひとやねを開始

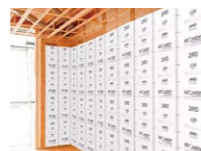
ZEH(ゼッチネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)の普及が本格化すると、国は住宅の省エネ性能向上を重要政策として位置づけ、断熱強化と太陽光発電による自家発電を積極的に推進しました。これにより、屋根には、軽量・高耐久・太陽光との相性の良さが求められるようになり、ガルバリウム鋼板やSGL鋼板の普及が急速に拡大。2010年代以降、屋根は住宅のエネルギー性能を左右する重要な要素として、国の目指す省エネ社会に欠かせない存在へと進化しました。



太陽光 ※創エネ(エネルギーをつくる)



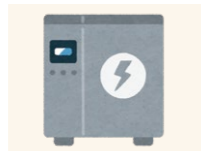
窓/断熱アルミ樹脂複合サッシ ※断熱(使うエネルギーを減らす)



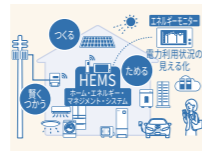
壁/断熱材 ※断熱(使うエネルギーを減らす)



防災瓦「ROOGA」従来の瓦に比べて約50%軽量化



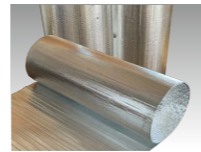
蓄電池 ※創エネ(エネルギーをつくる)



HEMS ※省エネ設備(使うエネルギーを効率よく)



エコキュート(高効率給湯器) ※省エネ設備(使うエネルギーを効率よく)



遮熱やさん「シャネリア」断熱材だけでは防げない室内の輻射熱を、97%カット

省 エネ性能の向上が重視されるようになり、住宅はエネルギーをつくる時代へと進みました。太陽光発電の普及により、屋根は単なる雨風をしのぐための部材ではなく、発電する場所として重要な役割を担うようになります。これに合わせて屋根材メーカーは、太陽光パネルとの相性や耐久性、施工性をさらに高める開発を推進。より安全で、長寿命で、省エネ効果を最大限に発揮できる屋根が求められる時代へと移行しました。

建 建築基準法の改定では、建物の耐震性に関する基準が大幅に見直され、屋根の重量や施工方法においても新たな基準が求められました。この流れを受け、屋根業界全体で施工方法の改善が行われ、より軽く、より強く、より長寿命の屋根材が開発され続けています。屋根の進化は止まることなく、現在も技術革新が続いています。



1995年新社屋完成・ハウジングウェア株式会社を設立

阪

神大震災をきっかけに「屋根の軽量化」「耐震化」が重要視され、屋根材の見直しが加速しました。

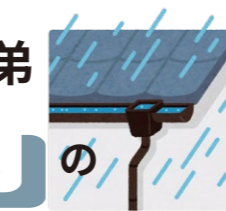
屋根と兄弟雨樋の意外と知られていない話

雨樋(あまどい)は、屋根とセットで語られることの多い重要な建物部位です。屋根に降った雨水をスムーズに地面へと流す役割を持ち、建物を雨害から守る点では屋根と同じくらい欠かせない存在です。

まず昔の雨樋は、水を排水するためではなく、屋根に降った雨水を飲料水や生活用水として利用するための「上水道」の役割を果たしていました。雨水は貴重な資源であり、樋を伝って集められた水は、井戸や水瓶に集められて生活を支えていたといわれています。

また、雨樋の素材も時代とともに大きく変化しました。江戸時代には竹が樋として多く使われ、節の空洞部分をそのまま利用することで軽くて扱いやすく、交換も簡単でした。さらに上流階級の家では銅製の雨樋が使われ、年月を経ると青く色づく「緑青(ろくしょう)」が、富と格式の象徴として好まれました。

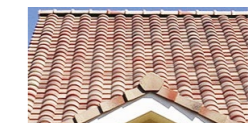
現代の雨樋はメーカー独自の技術で進化しています。パナソニックの「瞬水」は豪雨時のあふれを抑え、タニタの「すつ葉-U6号」は落ち葉詰まりを防ぐ設計。雨樋は今、気候に合わせて性能が向上し続ける「高度な技術パーツ」なのです。



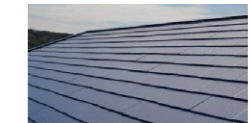
軒とい + 高排水システム対応 たてとい

1976 [S51] 植田板金店創業

昭和初期から続く外国文化の影響により、スパニッシュ瓦やスレート瓦など多様な屋根材が一般住宅でも定着し始めた時期です。



スパニッシュ瓦S瓦 大正時代スペインから輸入が開始され、次第に赤土を使い国内でも製造されました。



スレート瓦屋根 明治時代、海外から天然スレートを輸入。昭和に入り国内でも人工スレートを生産開始。